

学校だより、令和5年度は津田梅子の生き方について紹介します

本校の学校だよりでは、令和2年度・3年度は、新1万円札の肖像画に描かれる渋沢栄一について紹介してまいりました。「日本の資本主義の父」「日本経済の父」などと呼ばれる人物です。幕末に一橋慶喜(後の15代将軍となる徳川慶喜)に仕え、明治維新後は政府で働きました。その後、日本で最初の銀行である第一国立銀行(現みずほ銀行)を設立。実業界に身を置くと、第一国立銀行のほか、東京証券取引所、東京ガスや麒麟ビールなど、設立に関わった企業は実に500以上とされています。



【提供】お札と切手の博物館

そして、昨年度(令和4年度)は、近代日本医学の父・北里柴三郎の生き方を紹介してまいりました。新千円札の肖像に選定された北里は、今から130年前、伝染病との闘いに挑み、画期的な発見の数々によって多くの人々の命を救った人物です。ドイツに留学して細菌学者のコッホに師事し、世界で始めて破傷風菌の培養に成功、治療法を開発しました。帰国後も伝染病予防や細菌学の研究に取り組み、1894年にはペストの原因調査のため香港に赴くと、病原菌であるペスト菌を発見しています。北里大学の前身となる「北里研究所」を設立したほか、慶応大学医学部の創設にも尽力しました。



【提供】お札と切手の博物館

そして今年度は、津田梅子の生き方について、学校だよりに掲載してまいります。2024年(令和6年)に新たな五千円札の肖像となる津田梅子の名前は、「津田塾大学の創立者」として知られています。また、明治新政府が欧米に派遣した「岩倉使節団」に同行した最初の女子留学生の1人です。日本初の女子留学生としてアメリカに渡ったのは、わずか6歳の時でした。それから約11年間にアメリカに滞在し、帰国後は日本の女子高等教育に身を捧げました。



【提供】お札と切手の博物館

1900年に、私立の女子高等教育機関としては日本で初めての「女子英学塾(現津田塾大学)」を設立しました。日本の女性達が高等教育を受けられる機会を創出し、男性と同じように社会で活躍できる開かれた時代を目指して多大なる努力をした津田梅子。津田の生き方は、女性の更なる地位向上や個性の尊重が求められる令和の時代へと通じる先駆けであり、正に新紙幣にふさわしい人物と言えるのです。

出筆にあたりましては、学校法人津田塾大学津田梅子資料室をはじめ、関係機関にご協力をいただきながら進めてまいりたいと考えております。引き続きお読みいただけますと幸いです。